

## CSR(企業の社会的責任)活動

※詳細な情報については下記URLをご参照ください。  
<http://www.yamaha-motor.co.jp/profile/csr/>

### Customers お客さま

#### お客さまに感動を伝えるモノ創り企業を目指して

モノ創りは、お客さまに提供する価値を創る仕事です。ヤマハ発動機は常に「外向きに」の姿勢を忘れず、モビリティ製品の企画から開発、製造、販売、サービスに至るまで常に「お客さま基点」に立ってものを考え、モビリティ製品の品質、安全性、創造性の向上に取り組むことにより、お客さまの期待を超える価値を提供し続けます。

#### 次世代に夢をつなげるスマートパワー

2002年に電動二輪車初の量産モデル『Passol(パッソル)』を発表したヤマハ発動機は、低燃費化をもたらす次世代環境エンジンとともに、新しい動力源「スマートパワー」の開発を積極的に推進しています。

2010年9月に発表した電動二輪車『EC-03』は、家庭用電源でも充電可能なプラグイン方式が受け入れられ、2011年12月までに2千台の国内出荷を達成しました。電動アシスト自転車『PAS』は、健康志向や環境意識の高まりの中で、ラインアップの拡充とともに主婦やシニア層から通学・通勤での活用、官公庁や企業での業務活用まで支持層を広げています。

2011年11月にはトヨタ自動車と連携を強化し、充電インフラや情報インフラの共有、シェアリングなどの新交通システムへと展望を拓く「つながるバイク」サービスを発表し、「スマートパワー」は次世代交通インフラの一翼を担うモビリティとしての可能性を一層向上させています。

#### アセアンの信頼を支える3S政策

ヤマハ発動機グループは、アセアン地域や中南米をはじめ世界各地で、販売店舗や設備の刷新、的確な接客マナーや十分な説明スキルを身につけるためのスタッフ指導、店舗が近隣にないお客さまに対しての補修部品の供給体制の確立などの総合的な販売サービスの拡充に努めています。

特に2011年度はアセアン市場において、車両販売(Sales)、アフターサービス(Service)、部品販売(Spare parts)の面から総合的に顧客満足度を向上させる3S施策を販路に強力に推進しました。お客さまが抱く販売サービスへの満足感はやまハブランドへの信頼感へと高められ、アセアン市場に確固たるロイヤリティを確立しています。

#### グローバルに安全運転普及活動を展開

ヤマハ発動機グループでは、お客さまの安全運転技能の向上を図るために、二輪車やATV、ウォータービークル(水上バイク)、スノーモビルなどの製品領域で安全普及、モータースポーツ普及、製品普及の3つの要素を統合・体系化した「ヤマハライディングアカデミー(YRA)」をグローバルに展開しています。

2011年3月にはヤマハボート免許教室において、小型船舶操縦2級免許(以下、2級免許)取得の際に実技試験が免除される「2級実技試験免除コース」を新設し、関東地区の免許会場で順次展開しています。ボート免許取得者の拡大にも貢献しました。

## Employees 従業員

### グローバルな視野から価値を共有できる組織づくり

ヤマハ発動機グループでは、グローバルな視野から個人と会社が「高い志を共有し、研鑽しあい、協力しあい、喜びを分かちあう」組織体制を目指し、多様性が尊重される職場づくりを進めています。

#### 自立的で創造的な仕事環境を目指して

ヤマハ発動機グループでは、従業員と会社の関係を「ビジネスパートナーシップ」、会社が担う役割を「自立した個人に対する魅力づくり」と定義し、相互確認を前提としたキャリアプランの設計を支援するとともに、育児・介護休職制度や定年後の再雇用制度、障がい者の雇用機会の促進など、多様性とワークライフバランス(仕事と生活の両立)を確保した職場づくりを目指しています。

また、OSHMS<sup>※</sup>などの取り組みを通じて安全な労働環境の整備をグローバルに推進しています。

※労働安全衛生マネジメントシステム:

Occupational Safety & Health Management System

#### グローバルな視野を持った人材の育成

全世界で事業展開するグループビジネスの規模拡大と連動して、これまで以上にグローバルに活躍する人材の育成を積極的に推進しています。

2012年1月にグローバル・エグゼクティブ・プログラム(GEP)を策定し、海外の拠点で働く現地従業員の経営幹部への育成と登用機会を拡大しました。また、グローバル・エグゼクティブ・コミッティ(GEC)を設置し、ヤマハ発動機の経営理念・DNAの共有とグループとしての一体感を醸成しています。また、日本人従業員の海外経験を加速し、国内外従業員間のコミュニケーションを促進しています。

## Business Partners 取引先

### 協働と公正の精神に基づくグローバル調達・販売ネットワーク

グローバルに拡大していくグループの調達・販売体制の中で、ヤマハ発動機グループは「相互信頼・相互繁栄」の精神に基づいて国内外のさまざまなサプライヤー・販売店との協働関係を確立しています。

国内においては、経済産業省「自動車産業適正取引ガイドライン」に準拠するなど、各国・地域の競争法を遵守した公正な取引の維持に努めることで、ともに持続可能な成長を目指すパートナーとしての関係を確立しています。

#### サプライチェーンでの取り組み

モビリティ製品メーカーとして環境負荷低減・資源エネルギー効率活用の視野から「グリーン調達ガイドライン」を、安全・品質やコンプライアンスの視野から2010年7月に「調達先CSRガイドライン」を策定し、サプライヤーと情報共有して公正かつクリーンな調達を推進しています。

#### 販売店との取り組み

世界各国で展開する販売店は、お客さまとの接点として、ヤマハからの「次の感動」を伝える重要な発信地の役割を果たします。当社グループでは、定期的にディーラーミーティングなどを開催して販売店との連携を強化し、安全運転普及活動や地域貢献活動支援を通じて、共通の価値を提供する販売ネットワークを構築しています。

## The Community 地域・社会

### 地域・社会との絆の中で感動を創造・共有するために

「世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供する」ことを企業目的とするヤマハ発動機グループは、その製品、技術、人材、施設を最大限に活用して地域社会に貢献し、確固たる信頼関係を築いています。

#### 自治体・観光地の活性化に貢献するスマートパワー

ヤマハ発動機グループでは、次世代モビリティとして推進する「スマートパワー」を官公庁・法人向けにリースする「パスクル」事業を2009年から展開しています。

2011年は、地球高温暖化対策への積極的な取り組みを推進する埼玉県川口市の「次世代車導入検証事業」の一環として「パスクル」システムが有効活用されました。

また、徳島県徳島市の「ぐるっとくサイクル事業」と太陽光発電システムによる充電装置を設置した岐阜県多治見市の「電動バイク等貸出事業」に電動二輪車『EC-03』を、神戸市立六甲山牧場と摩耶ロープウェー「星の駅」に電動アシスト自転車『PAS』を提供し、観光地や地方都市の活性化に大きく貢献しています。

#### 従業員の自発的な社会貢献活動を支援

企業活動としての社会貢献活動に加え、社内イントラネットの情報提供システムを活用してグループ全従業員4万人のボランティア意識を啓発する「4万人のV作戦」を展開し、従業員の自発的な社会貢献活動を支援しています。2011年の活動延べ人数は40,294人で、4年連続の目標達成となりました。

#### 被災地域支援・復興支援活動

2011年3月11日に発生した東日本大震災に際しては、被災地域に対して当社インバーター発電機、飲料水、非常用食糧な

ど1億円相当の支援物資を3月15日時点で速やかに送らせていただくとともに、避難所や出先機関の連絡や移動手段として電動アシスト自転車『PAS』139台を被災地自治体・災害本部に緊急提供させていただきました。また、会社の拠出金と組合を通じた従業員の募金を合わせて2,000万円を義援金として、日本赤十字社を經由して速やかに提供させていただきました。

2011年10月のタイ洪水被害に際しては、タイ・ヤマハ・モーターを含む現地のグループ会社とともに、ライフジャケットやウォーターポンプ、ボート推進用エンジンなど、総額3,000万円相当の支援物資を提供させていただきました。

## The Environment 地球環境

### 地球環境と調和し共存する持続的な成長の実現を目指して

ヤマハ発動機グループは、新たに策定した「環境計画2020」に基づき、企業活動のすべてにおいて地球環境との調和に配慮し、多様な生命や価値との共存と調和の中で「持続的成長による企業価値向上」に努めていきます。

#### CO<sub>2</sub>排出量削減への取り組み

電動アシスト自転車や電動二輪車などを通じて低炭素社会の実現を先導する当社グループでは、温室効果ガスの削減を環境分野における最重要課題に掲げ、製品の開発から製造、使用、廃棄に至るライフサイクル全体で使用中のCO<sub>2</sub>削減への努力を進めています。また、中瀬工場（静岡県浜松市）では太陽光や風力による発電システムを導入するなど、事業活動全般における温室効果ガスの削減への取り組みを加速しています。

#### 環境負荷物資削減への取り組み

人体や環境にとって有害となる化学物質に関しては、排出・廃棄される物質の含有量について、各国の規制に準じて把握・報告を行っています。ヤマハ発動機が排出するPRTR<sup>※1</sup>制度報告対象物資の99%以上はVOC<sup>※2</sup>となりますが、そのほとんどが排出される塗装工程においてVOC含有量の少ない塗料を採用し、塗着効率の改善や廃塗料の削減を進めています。REACH<sup>※3</sup>規制に対しても、欧州向けの製品に含有される化学物質の管理強化に努めています。

#### 省資源・省エネルギーへの取り組み

ヤマハ発動機グループでは、「製品・工場でのリサイクル100%」「ロングライフの達成」を目標に掲げ、部品点数の削減や小型化の推進、再利用可能な物資を活用した部品の採用、さらに部品リサイクル性データ集計システムの運用を高めることで、製品の開発、生産、使用、廃棄の各段階で「3R (Reduce、Reuse、Recycle)」の徹底に努めています。

#### 生物の多様性保全への取り組み

2011年6月に着工した静岡県菊川市の二輪車用テストコース建設工事においては、用地および周辺地域の環境評価を行い、その結果を基に「自然環境保全協定書」を静岡県くらし・環境部環境局自然保護課に提出しました。これに基づき、周辺環境の保全を考慮し、外周には一定幅の既存植生を確保し、それ以外の樹林についても現在の動植物生態環境を損なわない配慮を施すなど、地球環境の保全と生物の多様性維持に努めています。

#### グループ全体での環境意識の向上

ヤマハ発動機グループでは、独自のG-YECOS（グローバル環境情報ネットワークシステム）の展開や社内イントラネットを活用したエコマインドの醸成を図り、グループ全体での環境保全活動レベルの向上に努めています。

※1 PRTR: Pollutant Release and Transfer Register (環境汚染物質排出・移動登録)

※2 VOC: Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)

※3 REACH: Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals (人の健康や環境の保護のために化学物質とその使用を管理する欧州議会および欧州理事会規則)